

薬物乱用防止教室を実施しました



12月17日(水)、5年生 6年生を対象に、山形県警察本部 少年サポートセンター置賜の遠藤信子調査官を講師としてお招きし「薬物乱用防止教室」を行いました。

令和になり中高生の検挙数がグンと増えてきていることや、川西町も関係のない話ではないことなど、小学生にも知っておいてほしい内容を教えていただきました。

学習後の感想を一部ですが紹介します。

私は大麻やコカインなどの薬物が身近にせまっているということを聞いてびっくりしたし、米沢市の少年が川西町の少年に売ったりしていたということを聞いてゾッとした。

また、一回やめたとしても、フラッシュバックしてしまって後戻りできないということも聞いて、薬物は本当にこわいものなんだなと思いました。 (5年生)

薬物乱用から身を守るために「正しい知識を持つこと、ルールを守ること、自分自身を守ること」を心がけて生活していきたいです。知人や友だちにさそわれても「きっぱりことわる、話題を変える、その場をはなれる、信頼できる人に相談する」を実行できるようにしたいです。

薬物は形を変えてやってくるので細心の注意をはらって生活していきたいです。 (5年生)

薬物はいろんな形やあぶなくなさそうな名前になっているということがわかりました。薬物のいぞん性で、薬がないとイライラしたり苦しくなったりするのでこわいなと感じました。薬を使うと、「友だち」「夢と未来」「健康な体」をなくすので気をつけたいと思いました。

(5年生)

薬物は危ないと思いました。

市販の薬や病院で渡された薬でも一歩まちがえると乱用になるということが学べたので、気をつけてていきたい。 (6年生)

薬物乱用を防止するには「正しい知識を持つこと」「ルールを守ること」「自分自身を危険から守ること」が大事だということがわかった。 (6年生)

友だちにさそわれても、はっきりと断らなきゃだめなことが分かったし、薬物はもう身近なところにあるので気をつけたい。 (6年生)

